

なすしおばら ボランティアセンター情報誌

令和3年3月20日号

那須高等学校「地元友だちプロジェクト」



1月13日（水）那須高等学校にて、今年度2回目となる授業科目「総合的な探究の時間」における「地元友だちプロジェクト」が開かれました。地域人としての基礎力を高めることを目的として長期的に活動するプロジェクトで、16名の生徒が参加しました。

今回は、那須町在住である視覚障がい者の渡辺伸勝さんとの交流でした。渡辺さんは、病気のため両目の視力を失い脊椎損傷のため車いす生活をしています。交流会ではいろいろな質問が出ましたが、とても明るい性格の渡辺さんはユーモアを交えて丁寧に答えていました。最後に、生徒からの感想を聞き「いろいろな立場の人がいること、そして困っている人がいたら自ら進んで声を掛けてほしい」と伝えました。交流を通じて地域にいる人に思いやりを持ち、将来の自分を見据えることを学びました。これからも継続的に渡辺さんとの繋がりを大切にしていきたいと思います。



東日本大震災から10年

～支援を続ける FUKUSHIMA ころもつなぐプロジェクト～

2021年3月11日で、東日本大震災から10年を迎えました。被災地では、これまで多くの市民やNPO、企業・団体などによるボランティア活動が行われ、復興の力となってきました。

「NPO 法人 FUKUSHIMA ころもつなぐプロジェクト」は、震災後に立ち上げられ、現在も支援を続けている団体です。その活動について、望月一枝代表に紹介していただきました。



「FUKUSHIMA ころもつなぐプロジェクト」は、東日本大震災後の福島避難者、特に子どもの問題に関心をよせる学生、教師、医療関係者、市民が国内外の人々をつなぎ、相互交流を通じた情報交換、支援、連携等を行い、協働活動の推進を図り、我が国の教育・保育・地域の発展に寄与することを目的として設立されました。この10年、様々な活動をしてきました。



二本松根柄山団地で 自治会長さんたちと交流

2020年10月17日(土)に二本松根柄山団地の自治会役員さんたちとの交流をしました。二本松根柄山団地自治会から6人、FUKUSHIMA ころもつなぐプロジェクトから6人、那須塩原市高林そば研究会から3人が丸くなって、それぞれの思いを話すことができました。

新潟県十日町市の棚田のお米を届ける 棚田のお米と避難者を応援するために

十日町の棚田のお米は、67歳の相澤さんと後継者が山の水だけで、一度だけの農薬除草、粘土質の田んぼで作ったお米です。(玄米を精米したとき、糠がとってもいい香りであることに驚きました)。このお米を65世帯に届けることは、棚田のお米への応援と二本松根柄山団地への応援をむすぶ試みです。静岡の前田さんが茶パック150袋を寄付してくれ、ふっくらごはんとお茶を召し上がってほしいと思いました。



65戸の皆さんへ棚田のお米と手打ちそばを

那須塩原市高林そば研究会(君島照明会長)は、手打ちそば170食分をそばつゆも添えて準備してくれました。そば打ち名人が集う高林そば研究会では16日の夜、心を込めて美味しい手打ちそばを打っていました。



前夜に高林そば研究会の皆さんが手打ち

高林そば研究会女性部の方が、70人分の手づくりマスクやコースター、香り高いラベンダースティックなどを用意してくれました。2人で準備するのは皆さんへの思いなくしてはできないことだと感じます。保冷器で運んだそばつゆも各戸に添えてあります。



女性部の手づくりマスクと
ラベンダースティックなど



そばつゆ

お米やそばを分ける作業のあとに



十日町棚田の
お米を袋詰め



静岡のお茶



各世帯に応じた手打ちそば分け

お互いの思いを交流



二本松根柄山団地の自治会(大浦二三雄会長)の大浦さんがお米を運ぶ台車を用意してくれていました。たまたま、当日の早朝、団地の一人暮らしの方が体調を崩し、会長や副会長たちが駆けつけ、難を逃れたことを伺いました。大浦会長は、自治会の役割を改めて感じたと話してくれました。9年半前の3.11では、高齢の親との困難な避難に加えて、混乱している避難所で自ら調整役を買って出たこと、皆に公平に、特にすばやくモノを確保できない人たちのために頑張ったことを語ってくれました。何度もの病気告知に3.11以後、熟睡した夜がないという方が、障害を持った子どもを抱えてこれから不安だという話に対して、とにかく、今を精一杯生きることだと励ましてくれました。参加者みんなの共通の課題は、高齢者介護で、自分たちがつながりあえるコミュニティをどのようにつくるかにかかっていると感じました。

【**今後は高齢化が進む那須塩原市のつながりも耕していきたい**】と思い、2021年2月那須塩原市役所を訪問しました。第8期那須塩原市高齢者福祉計画が策定されとのこと、これに基づいた活動もしていきたいと思います。

インタビュー | 那須塩原市高校生ボランティアグループ「とんぼの会」



とんぼの会を卒業する3年生が、インタビューに答えてくれたよ！

- ①とんぼの会に入ろうと思ったきっかけは？
- ②印象に残っている活動は？
- ③これからボランティアを始めようと思っている中高生へメッセージ



秋元莉子さん

- ①母にボランティアをやりたいと相談したところ、とんぼの会を紹介してもらったのがきっかけです。
- ②三島神社で行われる地域の自然体験塾です。理由は、子ども達の想像力の豊かさに驚き、また地域の方と交流でき積極的に活動できたと感じたからです。
- ③ボランティア活動は少しでも地域の力になることができ、自分自身を成長させることができます。ぜひ興味のある人は始めることをお勧めします。



宇賀神菜ノ葉さん

- ①ボランティアに興味があったからです。
- ②地域の方々たくさん関わる事が出来たので自然体験塾です。マイ箸を作って流しそうめんをしたことが特に印象に残っています。
- ③誰かの為になることは、やりがいがあります。



田代晴香さん

- ①中学生の時にボランティアサマースクールに参加して、高校生になってからもボランティア活動を続けたいと思ったからです。
- ②シルバースポーツ大会の手伝いです。お年寄りの方に対して、声はどのくらいの大きさがいいかなどを考えながら活動しました。
- ③ボランティアは他校の人と交流できたり、ボランティア先で多くの方と知り合うことができ、学ぶことも多いです。



シルバースポーツ大会のようす
(2019年6月)



小高明日奏さん

- ①ボランティアサマースクールに参加した時、とんぼの会の紹介を見て興味を持ったからです。
- ②シルバースポーツ大会の手伝いです。参加している方とたくさん話ができたと、活動中にお礼を言われたことがとても嬉しかったからです。
- ②ボランティア活動を通して、学校生活では得ることのできない様々な経験ができました。皆さんもとんぼの会で皆さんの発見をしてください。



坂内杏奈さん

- ①福祉に興味があったからです。
- ②視覚障がい者の方々との交流会です。初めて視覚障がい者の方と接して、相手のことを考えながら行動したりコミュニケーションをとることが大切だと思いました。
- ③ボランティアを通して学ぶことがたくさんあるので、ぜひボランティアに参加してみてください。



清水菜衣さん

- ①今まで部活が忙しく、ボランティアをやったことがなかったので、ボランティアをやりながらたくさんの人と関わりたいかったからです。
- ②シトラスリボン作りが印象に残りました。コロナ禍で頑張ってくださっている医療関係者の方たちのために私でもできることがあって良かったし、みんなで協力して作れたと思います。
- ③ボランティアは誰かの役に立つことができると同時に、多くの人との出会いがあって自分への刺激にもなると思います。



立澤香梅さん

- ①人のために働きたいと思ったのと、大学で社会福祉系に進むため、何か学べることはないかと思ったからです。
- ②3年生になってからとんぼの会に入会しましたが、みんな優しく、楽しく活動することができました。数少ない活動でしたが、参加できてとても良かったと思っています。
- ③ボランティアで経験したことや学んだことはこれからの力になると思うし、何よりも楽しいです。頑張ってください。



益子瑤菜さん

- ①中学時代から続けていたボランティア活動を通して、人との繋がりを広げられたからです。
- ②高齢者や障害のある人の読み書き支援などを行っているアイサポート那須さんと視覚障がい者の方々との活動です。とても元気をもらい視覚障がい者の方への対応の知識も身に付けることができました。
- ③迷ったらぜひ小さな行動から初めてみてください。自分から行動をして素敵な仲間と出会いましょう。



時庭爽夏さん

- ①ボランティア活動が好きだったからです。
- ②シトラスリボン作りです。今のコロナ禍ならではの活動で、全て手作業で作られるリボンに感動しました。早くコロナが収まってほしいです。
- ③ボランティアをすることによって磨かれるボランティア精神は、これから生きていく中で必ず役に立ちます。誰かのために動きたいと思うことは、素晴らしいことです。



高木夢果さん

- ①中学生の時にとんぼの会の説明会のプリントが配られたことです。ボランティアに興味があったのでいろんな活動をしてみたいと思い入会しました。
- ②地域のお祭りやイベントの手伝いです。お祭りやイベントは、皆が協力してひとつになって作り上げる雰囲気と仕事がたくさんある充実感がとても楽しく印象に残っています。特にシルバースポーツ大会の手伝いでは活動を通して高齢者の方と話をすることの楽しさを改めて感じることができました。
- ③ボランティアは大変なこともあるけれど、それを上回る楽しさと学べることがあると思います。少しでもとんぼの会やボランティアに興味があるならぜひ参加してみたいです。



人見晴花さん

- ①中学生の時に初めてボランティア活動に参加してから、ボランティアに対して興味を持ち、中学卒業後も続けたいと思っていた時にとんぼの会があることを知り入会しました。
- ②シルバースポーツ大会です。参加者の方々が笑顔でとても元気に参加している姿を見て、私も元氣になれました。
- ③今の状況ではイベントなどが中止になっていますが、活動が制限されていますが、ボランティアは様々なことを学ぶことができるので進んで参加してほしいです。



山本藍美さん

- ①新しいことに挑戦してみたかったからです。
- ②チャリティウォークです。16キロという長い道のりを歩くこと自体なかなかないのでとてもいい経験でした。地域の方々の応援や友達との励まし合いがなかったらゴールできなかったと思います。それほど声援や友達の力は大事だと感じました。
- ③より多くのボランティアに参加して積極的に動きましょう。



チャリティウォーク
(2020年9月)



星知里さん

- ①ボランティア活動をしたと考えていた時に、とんぼの会を知ったことがきっかけです。
- ②視覚障がい者の方々と交流と、託児ボランティアで障害のある子ども達と接したことです。これらの活動は、コミュニケーションがうまく取れなかったり、配慮が足りなかったりと自分の力不足を痛感したので、強く印象に残っています。また、これらの活動を通して、改めて人と接することの大切さを感じることができました。
- ③ボランティア活動を通して、何事にもチャレンジする精神を学びました。ボランティア活動においても、臆せずに様々なことにチャレンジしてみてください。



菅俣琴美さん

- ①公民館で行われているイベントの手伝いを個人的にしている時に、とんぼの会の方々もいてそこで誘っていただきました。
- ②稲村公民館で行われていたことも体験塾です。何度も参加させていただいて、一緒に料理をしたり、運動できて楽しかったです。また、覚えてくれた子がいたことが嬉しかったです。
- ③「やってみようかな」「気になるな」はやってみて損はないと思います。失敗も成功もして経験値を溜めておくと、後々楽だったりするかと思います。



磯桃果さん

- ①中学生の頃に、ボランティア部という部活動に加入しており、活動に大きなやりがいを感じていました。高校生になっても、ぜひボランティアを続けたいと思っていたので入会しました。
- ②視覚障がい者の方々との交流会です。視覚に障害を持つ方とはそれまで全く接点がなかったのととても緊張してしまいましたが、とにかく丁寧に接するように心掛けました。皆さんとても明るく、経験が浅く頼りなかったであろう私のサポートを笑顔で受け入れてくださった上に、一緒に純粋に野外活動を楽しんでくださったので、嬉しく感じました。最後に、私が担当したご夫婦から「あなたは孫のような存在だよ」とおっしゃっていただくこともできて、本当に参加して良かったと思いました。
- ③初めてボランティアに参加することには勇気が少し必要かもしれませんが、ボランティアで得られる経験は成長の糧となるので、まずは第一歩を踏み出してみたいです。とんぼの会にはたくさんの活動の機会があるので、興味を持ってくれた方はぜひ入会してくださいね。



視覚障がい者の方々との交流会
(2018年7月)

活動紹介 | とんぼの会 ～シトラスリボン作り&収集ボランティア～



2月23日(祝)、ボランティアセンター本所にメンバー6名が集まり、とんぼの会で収集しているハガキやテレホンカード等の整理とシトラスリボン作りを行いました。初めて作るシトラスリボンに悪戦苦闘しながらもひとつひとつ丁寧に作成しました。

2月26日(金)、とんぼの会を代表して磯桃果会長と田代晴香さんの2名がアジア学院を訪問し、今年度集まった収集物のハガキやテレホンカード、外貨コイン・紙幣、使用済み切手等を寄付しました。毎年、この時期に寄付のためアジア学院を訪問していますが、今年度は新型コロナウイルスの影響もあり例年より少なめの寄付ではありましたが、アジア学院の方々にとても喜んでいただきました。コロナ禍でもできるボランティア活動のひとつとして、これからも収集ボランティア活動を継続していきます。

2月27日(土)、いきいきふれあいセンターにメンバー4名が集まり、シトラスリボン作りを行いました。2日間で270個ほどのシトラスリボンを作成することができました。これらのシトラスリボンは医療従事者の方へ届けられます。

集まれ高校生！ とんぼの会新規会員募集中！！

《入会条件》
那須塩原市を拠点に活動できる**高校生**

《活動目的》
ボランティア活動を通して地域社会に貢献する

《活動内容》
市や地域イベントへの協力
定例会・交流会など

《年会費》
600円
(保険代等)

【問い合わせ】 那須塩原市社会福祉協議会 ボランティアセンター
那須塩原市南郷屋 5-163 健康長寿センター内 TEL : 0287-47-6700

収集物報告

皆様からお預かりしました収集物を以下のとおり寄付いたしましたのでご報告いたします。

《空き缶のプルタブ》

【令和2年3月～令和3年2月分】 21.0kg

※障害者福祉施設に寄付し、施設の活動に役立てられています。

《使用済み切手、未使用・書損じハガキ、テレホンカード、外貨コイン・紙幣》

【令和2年3月～令和3年2月分】

○使用済み切手	5.1kg		
○未使用ハガキ	41円	40枚	○書損じハガキ 41円 2枚
	50円	127枚	50円 6枚
	52円	218枚	52円 16枚
	62円	106枚	62円 4枚
	63円	1枚	63円 10枚

○テレホンカード 15枚 ○外貨コイン・紙幣 上記期間に預かった分

※アジア学院に寄付し、施設の活動に役立てられています。

ご協力ありがとうございました



みんなで手話を学びました！ 手話体験講習～初級編～

2月24日（木）、聴覚障がい者への理解を深め、地域での過ごしやすい環境を知ることが目的に、地域支援合い推進員13名と社会福祉協議会職員5名が那須塩原市聴覚障害者協会の鈴木弘義代表と通訳者の矢吹陽子さんを講師に迎え、手話体験講習をとようら公民館で開催しました。初めはお互いにとても緊張している様子でした。手話体験では自分の名前やあいさつ、家族構成などの手話を教わり、その他に災害の時の対応や要望など、生活していてどんな事に困るのかご自身の体験や貴重な話を聞かせていただきました。

最後に鈴木さんが「街で見かけたら恥ずかしがらずに肩を叩いて声をかけてください。ジェスチャーでも通じるんです。僕たちのことをわかってくれることが嬉しいです。」と話してくださいました。

体験後、推進員の方々に感想を聞いてみると、「難しかったけど楽しかった」「とても勉強になりました」などの声が多く上げられていました。今後、鈴木さんから学んだ手話を地域の中で活用していただけることを期待しています。



鈴木代表による手話体験講習のようす



手話「I LOVE YOU」のポーズ

「令和3年度ごみ出しカレンダー」できました！

毎年、那須塩原市産業対策課からの依頼を受け「点訳サークル でこぼこ」の皆さんが、点字の“ごみ出しカレンダー”を作成しています。会員同士で手分けをして点訳し、チェックをしてから、最後にいきいきふれあいセンターの点訳室で打ち出し作業を行っています。ボリュームのある内容の点訳と打ち出しをして完成させるまでには多くの時間と労力がかかりますが、高秀代表を中心に「でこぼこ」さんのチーム力で作り上げています。

これらの点字ゴミ出しカレンダーは、希望された視覚障がい者の方などへ配布されています。ご希望の方は、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ】

那須塩原市廃棄物対策課一般廃棄物対策係

TEL：0287-62-7301

那須塩原市社会福祉協議会ボランティアセンター

TEL：0287-47-6700



「A地区」「B地区」それぞれあります！



「点訳サークル でこぼこ」の皆さん

《令和3年度ボランティア活動保険のご案内》

- ◆ボランティア活動保険の加入対象 → **ボランティアセンター登録者・登録団体**
- ◆ボランティア活動保険の対象となるボランティア活動
日本国内における、自発的な意思により他人や社会に貢献する無償のボランティア活動で
ボランティアセンターに届け出されている活動が補償の対象となります。
- ◆補償期間 → 加入手続き完了日の翌日午前0時から令和4年3月31日午後12時まで
- ◆保険料（年間／1人）

プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
年間保険料	350円	500円

※基本プランと天災・地震補償プランの違いは？

平時・災害時とも、基本プランでは地震・津波・噴火に起因するケガは補償対象外となりますが、天災・地震補償プランでは補償対象となります。

【重要】 継続のお手続きは、3月末までにお済ませください。4月1日付で「ボランティア活動保険」の継続加入を失念して後日加入された場合、新規加入扱いとなるため、「特定感染症補償」については保険期間の開始日からその日を含めて10日以内に発症した場合は補償の対象となりませんので、ご注意ください。「新型コロナウイルス感染症」は、令和2年度中に「特定感染症補償」に追加されています。

ボランティア活動保険等についてのお問合せは、ボランティアセンターまでお願いいたします。

【ボランティアセンター本所】



住 所：那須塩原市南郷屋5-163
健康長寿センター内
電 話：0287-47-6700
FAX：0287-47-6690
Eメール：v.center@ns-shakyou.jp

【ボランティアセンター黒磯】



住 所：那須塩原市桜町1-5
いきいきふれあいセンター内
電 話：0287-73-0073
FAX：0287-73-0073
Eメール：k.vcenter@ns-shakyou.jp

ボランティア活動実績

1月	イベント	0件	0人	2月	イベント	0件	0人
	託児	0件	0人		託児	0件	0人
	その他	5件	5人		その他	0件	0人
	合計	5件	5人		合計	0件	0人

ボランティア登録数（2月28日現在）

団体	個人
121団体	83人



発行：社会福祉法人那須塩原市社会福祉協議会
ボランティアセンター本所 TEL 0287-47-6700 FAX 0287-47-6690
〒329-2705 那須塩原市南郷屋 5-163（健康長寿センター内）
Eメールアドレス v.center@ns-shakyou.jp
ホームページアドレス <http://ns-shakyou.jp/>
★メール、FAX、お電話で皆さまの感想や情報をお寄せください。

